

## 第 16 回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨

1. 日時 平成 22 年 10 月 26 日(火) 15:00～17:00

2. 場所 主婦会館 プラザエフ 7F「カトレア」

3. 議題

(1) 平成 22 年度 VOC 排出インベントリ検討会の進め方について

(2) VOC 排出インベントリにおける残件と新たな情報への対応について

(3) 法令取扱分類別排出量の推計方法について

(4) 混合溶剤等の VOC 成分別排出量の推計方法について

(5) その他

4. 出席者

委員: 浦野委員長、泉委員、指宿委員、川辺委員、久米委員、柴田委員、高戸委員、前野委員、山口委員、油井委員

オブザーバー: 伊藤氏(日本クリーニング環境保全センター)

環境省: 山本大気環境課長、手島大気環境課長補佐、山田大気環境課長補佐

事務局: 株式会社環境計画研究所

5. 議事内容

事務局より、「平成 22 年度 VOC 排出インベントリ検討会の進め方について(案)」について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 今年度の調査は、アルコール系工業用洗浄剤の使用に係る排出量推計手法や、成分別排出量等の残件調査を中心に進める。
- ・ 民生品の使用に係る VOC 排出をインベントリで扱うべきかどうか等については、本検討会の資料 3 を用いて検討する。
- ・ VOC 排出削減要因の解析については、環境省からの依頼に基づいて、本検討会で実施するが、業界から得られるデータには限りがあること等に留意が必要である。

事務局より、「VOC 排出インベントリにおける残件と新たな情報への対応について(案)」について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ アルコール系工業用洗浄剤については、主な使用・排出であると考えられる電子部品・デバイス製造、精密機械器具製造におけるイソプロピルアルコールの使用を中心に調査を行い、治具洗浄やワイピング等の手拭きについては、情報が得られた場合に対応する。
- ・ 東京都民生 VOC 調査結果を利用した民生品の使用に伴う VOC 排出については、主な商品について調査を進め、事務局より VOC 排出インベントリでの具体的な扱い方の案を作成した上で、さらに本検討会において検討を行う。
- ・ 古い文献等により推計をしている発生源品目については、新たな情報が得られた場合、情報の利用について検討を行うものとする。

事務局より、「法令取扱分類別排出量の推計方法について(案)」について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 法令取扱分類別排出量については、大気汚染防止法に定める届出データによる施設ごとのミクロな情報の積み上げではなく、事業所ごとのマスフローによる排出量等マクロな情報により推計を行うことが適当である。
- ・ 法令取扱分類別排出量については、一部の業界団体において VOC 規制に関する大防法改正時に調査を行っており、業界団体から提供可能なデータがある場合、それを利用し、それ以外の場合、事業者へのアンケートを実施する。

事務局より、「混合溶剤等の VOC 成分別排出量の推計方法について(案)」について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 提案どおり、「製造機器類洗浄用シンナー」、「化学品」等については、それぞれ、既存の情報により拡大推計を行うことにより、成分別構成比を求める。また、他の発生源品目についても、可能な限り同様の方法で成分別構成比を求める。
- ・ 東京都民生 VOC 調査で対象となっている民生品についても、事務局が情報を整理し、次回検討会において検討を行う。

< 配付資料 >

委員名簿

第 16 回 揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事次第

第 16 回 揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 座席表

資料 1 第 15 回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨

資料 2 平成 22 年度 VOC 排出インベントリ検討会の進め方(案)

資料 3 VOC 排出インベントリにおける残件と新たな情報への対応(案)

資料 4 法令取扱分類別排出量の推計方法(案)

資料 5 混合溶剤等の VOC 成分別排出量の推計方法(案)

参考資料 1 「揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリについて」(平成 22 年 3 月、揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会)(委員限り)

参考資料 2 「揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ(平成 20 年度排出量)」(平成 22 年 3 月、環境省水・大気環境局大気環境課)(委員限り)

以上